



92. タラバガニ *Paralithodes camtschaticus*

(Tilesius) 図版36、37

英名 red king crab, Alaska king crab

露名 カムチャツスキー クラブ
камчатский краб

地方名(北海道) タラバ

漢字 鱈場蟹

アイヌ語名 ホテンテムアンパヤヤフ

【形態】 カニ類は鉗脚*のほかに4対の歩脚*を持つのに対し、ヤドカリの仲間(異尾亜目)であるタラバガニでは最後の1対が退化して甲殻の下に隠れる。鉗脚は右側が強大。雄の腹節*は三角形に近いのに対し、雌のそれは円形に近いことで雌雄を識別できる。雌の腹節は左右不相称で末端部が右に偏ることも、カニ類とは異なる。甲殻面には明瞭な棘*が多数あり、胃域*に6棘、心域*に6棘、腮域*に7~10棘のほか、前縁、前側縁、後側縁および後縁にそれぞれ4~5棘ある。形態がよく似たアブラガニ *Paralithodes platypus* は、心域の棘の数が4本である。タラバガニの体色は生きている時には、背面は紫色で、腹面や鉗脚のはさみの部分は朱黄色、歩脚の末端は濃紫色で

ある。熱を加えると体表面が朱色になる。

【生態】 アラスカ沿岸の北極海、ベーリング海、北太平洋、オホーツク海の水深30～360mに分布する。日本近海では北海道周辺に生息する。未成体*期には浅みに密集して分布し、成体*に近づくと深みに分散する。産卵期には沿岸域の浅みに移動する。雄は成熟*した雌と出会うと鉗脚で雌をつかまえて、雌の脱皮*を待つ。脱皮が完了した雌をつかみ直し、短時間のうちに精子を渡す。カニ類の雄が持つ交尾器*はなく、雄は第5脚*、雌は第3脚の基部にそれぞれ生殖孔*を持つ。雌が腹節を開くと、雄は雌の生殖孔の近くに精爽*を付着させる。その後すぐに雌は腹節を閉じ、腹肢*に卵を産み付ける。産卵期は4～6月。卵はやや楕円形で長径0.8～1.0mm、短径0.7～0.8mm、色は青紫色。産卵数*は甲長*10～15cmで5万～18万粒である。ふ化は産卵から約1年後の3～5月ころで、ゾエア*幼生*で生まれる。その後4回脱皮してグローコテ*幼生となり、さらに12～20日後に脱皮、変態*して、成体の特徴を示す第1齡期*の稚ガニとなり海底で生活するようになる。

北海道近海に生息するトラバガニの年齢と甲長の関係は、1齡期稚ガニで甲長1.7mm、1歳で甲長8.2mm(10齡期)、2歳で24mm(20齡期)、3歳で50mm(28齡期)、4歳で72mm(32齡期)、5歳で85mm(36齡期)で、6歳で100mm前後となって性成熟*を迎える。